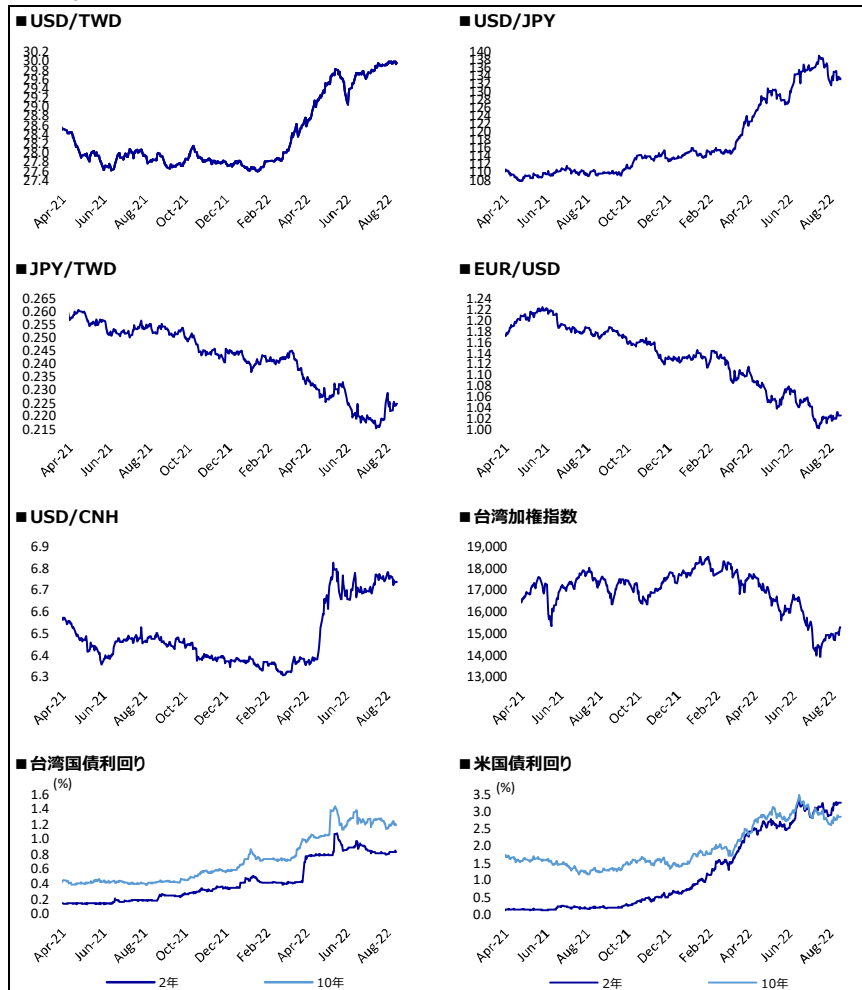


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはレンジで推移。週初8/8は29.990でオープン後、前週の強い米雇用統計の結果を受け米金利が上昇しており、ドル買いが優勢となりドル台湾ドルは30台まで上昇。しかし、輸出企業等のドル売りに上値を押さえられ、29台に戻した。8/9も30台に乗せるも上値を押さえる動きから、終値は29台となった。8/10は寄り付きから台湾株が下落するとドル台湾ドルは一時30.050まで上昇。その後も30台で推移したが、引けは29台に下落した。8/11は前日に発表された米CPIが市場予想を下回ったことから、29.928まで下落。一巡後は次第にドルが買い戻され29.98付近で推移したが、米CPIを受けて米株が上昇したことから台湾株も買われており、外資が流入し、29.94付近まで下落。8/12はギャップアップしてオープンしたものの、台湾株高の流れから29.94付近まで下落。一巡後は輸入企業のドル買い等が入り、最終的に先週比0.1%ドル高台湾ドル安の29.970で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は25.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初8/8は134.95でオープン後、前週の米雇用統計の強い結果を受けた流れが続き、一時135.58まで上昇。しかし、米金利が低下すると134円台前半まで下落したが、週別に米CPIの発表を控えているため、動意に欠け、135円付近での推移となった。8/9もCPIの発表を前に様子見ムードが強まり、135円付近のレンジで推移。8/10はCPIが発表されると市場予想を下回り、利上げペースが減速するとの見方が強まり、米株高・債券高の流れとなり、ドル円も132円ちょうど付近まで下落。8/11は東京休場の中、133円台前半まで戻したが、米7月PPIも市場予想を下回ったことから一時131.74まで下落。その後は米金利が徐々に上昇するとドル円はじり高となり、133円台に戻した。8/12は日経平均が大幅反発すると133円台後半まで上昇したが上値は重く、133円台前半に戻された。その後は、クロス円の上昇につられて133円台後半まで上昇したが、発表された米8月ミシガン大消費者信頼感予想を上回ったものの、期待インフレ率はまちまちの結果で一段の上昇とはならず、週末を控え小動きの展開となり、最終的に先週比1.0%ドル安円高の133.61で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.850-30.050
米CPIを受けて、ドル高が一服している。先々週は地政学リスクの高まりもあり、株式相場は軟調に推移していたが、米CPIを受けて株式相場は反発していることから、ドル台湾ドルの上値は重い展開が続くと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：131.00-136.00
米7月CPIを受けて過度な利上げ期待は後退したものの、引き続き、CPIは高水準であり、利上げが続くことには変わらない。今週はFOMC議事要旨が発表され、改めて年内利上げの流れを確認することとなるであろう。日米の金融政策の差が大きく変わったわけではないので、引き続き円を買う理由は乏しく、底堅く推移するであろう。

今週の予定

8/15 (MON)	日Q2GDP、米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数
8/16 (TUE)	米7月住宅着工・許可件数、米7月鉱工業生産
8/17 (WED)	米7月小売売上高、FOMC議事要旨
8/18 (THU)	米8月中古住宅販売件数
8/19 (FRI)	台湾Q2経常収支、日7月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。